

私の体験

上岡 国夫

という気持ちは学生時代にはそれほど強 とがいやに鮮明に浮かんでくる。生活の のころと比べてどうのこうのと言うつも か。ただ一つ、がむしゃらに何かに没頭 も大学は私にとって何だったのだろう 実した五年間であったように思える。で にした。これは今思い起こしてみても充 こで、三十五歳で大学院に入学すること 程で発生するものなのかも知れない。そ くなく、社会でさまざまな経験を積む過 就くことになった。本当に勉強したくな 位で卒業と教員免許状を手にして教職に せない私の大学生活は途中の頓挫もあっ ためのアルバイトとドイツ語しか思い出 めくってどうやらすり抜ける、こんなこ みを言われるのがいやで一所懸命辞書を していたのであろうか。何も思い出せな 棘さすこと」ばかりであった。何を勉強 りは全くない。私の学生時代は、「胸に 代を思い出すことが多い。今の学生をそ か無性に勉強したくなった。勉強したい る。心理学も教育学もロシア語もなんだ ったのは就職してからだったようであ て、八年間続いた。どうやら最低限の単 い。ドイツ語の時間になると先生にいや 近頃、もう四十五年も前になる学生時

ROAD OF THE ECONOMICS

何かが形成されていったのかもしれない。する中に漠然としたものではあったが.

きつ学ぶも

論理力、 的能力を与えてくれるからであり、もう はこれを「つぶしがきく」などというこ れを「人類の全達成」と呼んでいるが、 だからである。心理学者ヴゴツキーはこ を薦めたい。一つは、言語学習はまさに はこれだと私は思う。このような意味か してくれるものである。大学で学ぶもの え方を形成する大事な時期と機会を提供 教育する実質陶冶ではないが、その後の 形式陶冶であって、直ちに役立つものを とばで表したものである。 る「目的機関」ではない。私の学生時代 学部や教育学部などと異なって、 あればいいと思う。幸い、経済学部は医 う形のはっきりしたものでなくともよく、 人生を広く支えてくれるものの見方・考 これからの精神形成の土台となるもので この全達成は言語の中に結実しているの 一つは言語は人類のすべての歴史の結晶 だから私は大学で学ぶべきものは、 私は外国語を思い切り学習すること 推理力、学習力などの形式陶冶 教育学で言う いわゆ そ

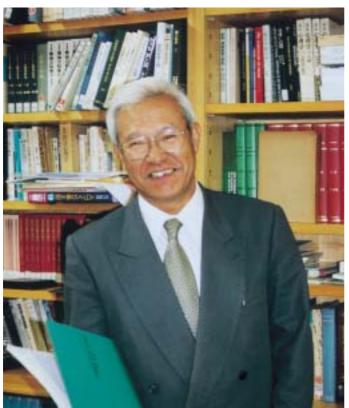
いる。 いる。 ではなく、単位のためでもなく、それを話している人たちの魂に触れたいといめではなく、単位のためでもなく、それいといいる人には、成績のたい日本人には打ってつけの教材を提供しい日本人には打ってつけの教材を提供し

ーニンの演

になるが、この言葉はロシア革命の指導「学べ、学べ、そして学べ」。少々古い話

を含しまでは言っないまでも、自己を はもう必要がないと思いがちである。と がそうではないのである。 とうのであって、成人に達し、社会に出れ ちは勉強とか学習は人生の準備段階で行 ちは勉強とか学習は人生の準備段階で行 ということである。私た に出てくる。革命を達成するためにはと

が終わりになるまで学習は続くのである。人生ある。生涯学習の基本はここにある。人生変革し、社会を変革するには学習が必要で革命とまでは言わないまでも、自己を革命とまでは言わないまでも、自己を



上岡 国夫 (かみおか くにお)

経済学部教授。

学ぶことに他ならない。国際感覚に乏し

ある民族の言語を学習するということ

その民族の全達成を学ぶこと、魂を

1964年京都大学教育学部卒業。73年東京教育大学教育学研究科博士課程単位取得。教育心理学専攻、言語学習論を中心に研究した。渋川高等学校教諭、足利工業大学講師を経て、77年高崎経済大学経済学部講師、84年同教授、03年退職、規在特任教授。この間、1993年~2002年高崎経済大学付属高等学校校長。趣味はデジカメ撮影と蕎麦打ち。ロシア語の力をもっと伸ばして短期でいいからロシアに留学したい。今年の目標はパステルナークの「ドクトルジバコ」を原語で読むこと。

※上岡教授は平成15年3月をもって退職